

令和元年9月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

一般財団法人

北海道国際交流センター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 『JICA世界ふれあいひろば』 NGO相談窓口設置

企画実施概要： ①JICA世界ふれあいひろばのイベントにおいてNGO相談窓口を設置し、NGO全般にかかわる相談業務を実施した
②対象者および参加人数：イベント参加者数延べ700名

2 出張者氏名 岡田朋子

3 依頼元／主催団体名 JICA北海道

4 実施予定日時 令和元年8月31日（土） 10：00～15：00

5 実施場所 JICA北海道

6 実施報告 JICA北海道主催で開催される「世界ふれあいひろば」において、ブースを出展しNGO相談窓口を開設した。一般市民の方が多く参加されるイベントで、国際協力についてあまり知らない方も多く窓口には北海道にはどんなNGO団体があり、どんな活動をしているのかという相談が多かった。またNGO関係者からはファンドレイジングや助成金の情報が欲しいという相談やSDGsのイベントを企画したいのでワークショップのアドバイスが欲しいという相談があった。

7 写真



相談の様子

(写真1)



相談の様子

(写真2)

以上

令和元年9月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人 IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 新庄・最上 ジモト大学

企画実施概要： ①実施内容

- ・IVYのODA資金を活用した海外事業・NGO相談員制度についての説明
- ・開発教育協会教材「豊かさ」と開発」のワークショップを行い、自分にとって、みんなにとっての「豊かさ」とは何かをグループワークを通して考えた。
- ・SDGsの目標である誰一人取り残さない社会とはどんな社会なのかを、先に行なった「豊かな」世界と地域をそれぞれのつながりから考えた。

②対象者および参加人数

最上地域高校生 12人、大学生2人、一般市民5人 計19人

2 出張者氏名 阿部真理子

3 依頼元／主催団体名 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム

4 実施予定日時 令和1年8月6日（火） 13:30～16:30

5 実施場所 山形県新庄市 雪の里情報館

- 6 実施報告
- 1 IVYの活動内容を聞き、「平和」とは何か？を考えてみたいと思った。難民についても、自分で調べてみたい。
 - 2 とても楽しかったです！また、全部興味の沸く、面白い話題で、自分から積極的に発言していく大切さ、大変さを知ることができ、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために試行錯誤することの楽しさを感じることもできました。これからも、自分に何ができるか、普段から自分の行動ひとつひとつを考え直していきたいです。
 - 3 世間が騒いでいる問題が本当に問題なのか、解決すべき点なのか、それはどれほど必要なのかなど現状の問題についてもっと深く考える必要があることを学んだ。

7 写真



今回のワークショップの目的を説明

(写真1)



アイスブレイキング：今と15年後の世界を比較する

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 「豊かさと開発」ワークショップ開催

企画実施概要：

- ①実施内容
 - ・ IVYから、N連、JPF事業である海外支援、NGO相談員制度について説明
 - ・ 開発教育協会制作の「豊かさと開発」のワークショップを行う。
 - ・ SDGsの成り立ちと目標について紹介
 - ・ SDGsと自分たちの暮らす地域社会との繋がりについて考える。

②対象者および参加人数

高校生5人、一般市民8人 計13人

2 出張者氏名

阿部真理子

3 依頼元／主催団体名

認定NPO法人IVY主催 JICA東北共催

4 実施予定日時

令和1年8月7日 (水) 13:30~16:00

5 実施場所

秋田県秋田市にぎわい交流館AU 4階 研修室1

6 実施報告

- 1 住んでいるところも体験も親も違うのに、全てが同じはあり得ない。SDGsの目標である誰一人取り残さないを実現するには、個人個人が相手のことを認め合うことが大切だと感じました。
- 2 世界の問題から自分の地域の問題にまで触れ、地域で自分たちができることは何かを知ることが出来た。
- 3 日常で今日やったようなことを考える時間があまりないので、今日のようなワークショップがもっと自分の周囲でも行われるようになったらいい。

7 写真

	
IVYの国際協力活動、NGO相談員制度について説明	参加した理由、ワークショップへの期待などを発表

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： SDGsと国際協力NGOの取り組みについて

企画実施概要： ①実施内容
・ NGO相談員制度の紹介
・ 弊団体事業（N連、JPF事業）の紹介
・ SDGsの概要説明
・ SDGsについて知る、考えるための教材体験
②対象者および参加人数
参加者 20人（中学校教員、青森県庁職員など）

2 出張者氏名 小笠原 直子

3 依頼元／主催団体名 南地方中学校教育研究会 社会部会

4 実施予定日時 令和1年8月8日（木） 13:00～15:00

5 実施場所 藤崎町立藤崎中学校（青森県南津軽郡藤崎町）

6 実施報告
参加者の感想
・ SDGsに関する社会の教材作りを考えていたので、授業で活用できるネタを学ぶことができ参考になった。
・ 「持続可能な社会」の捉え方がそれぞれ異なるため、どのような社会を築きたいか、キャリア教育にも活用できると思った。
・ 社会科の授業づくりとしてのSDGs理解を想定していたが、教科の枠を超えて取り組むべき課題であると感じた。

担当者所感

今回はJICA東北センターからの紹介により実施となった。JICA東北からの提案により、JICAが行っている教師海外研修プログラムの過年度参加教員に、授業実践の事例紹介、学校でのSDGsに関する取り組みを紹介してもらった。参加者からは「授業の事例紹介が参考になった」との声も多く、研修対象者によっては相談員だけでなく、他のリソースも交えた発表が効果的であることを学んだ。

7 写真



弊団体の事業（N連、JPF事業）の紹介

(写真1)



「豊かな社会」とはどんな社会なのか、カードを使って考える参加者

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：** A K I T A 英語コミュニケーション能力強化事業第2回
スーパーイングリッシュキャンプ2019 ワークショップ「貿易ゲーム」
- 企画実施概要：** 秋田県が開催している2泊3日のイングリッシュキャンプの中で、NGO相談員がファシリテーターとなり、「貿易ゲーム」を行った。また終了後、経済活動から生じる世界の様々な問題やその解決のために行っているODAやNGOの活動として、弊団体のカンボジアやイラクの支援事業を紹介した。

②対象者および参加人数
高校生 54人、英語指導助手7人、教師3人

2 出張者氏名

安達 三千代

3 依頼元/主催団体名

秋田県教育庁 高校教育課

4 実施日時

令和1年8月31日 (土) 13:00 ~ 15:00

5 実施場所

秋田県総合教育センター (秋田県潟上市)

6 実施報告

- ・貿易ゲームを通じて、先進国と発展途上国にある格差を体験し、さらに、安達様の講演を通して、グローバル社会を生きる私たちがどのような役割を果たすべきかを考えるよい機会になりました。
- ・経済格差が大きいと出る利益の差も大きくなった。実際に格差を体験しなければどれだけ困っているか、きちんと理解できない。先進国として心を広くして何ができるか今一度考えたい。
- ・日本は赤字なのになんで他国に協力してるんだ!?と思っていたが、少し納得。

7 写真



ゲーム開始、5分後。はさみや紙を求めて、他国や市場との交渉を始めたときの会場の様子。

(写真1)



自国の珍しい資源を売り込みに来た貧しい国の生徒と価格を値切ろうとする豊かな国の生徒。

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 埼玉県高等学校家庭クラブ連盟主催夏季講座における相談対応

企画実施概要：

①企画内容

国際協力について学び、進めようとしている高校生を対象に、グローバルな課題の現状や国際協力について深く理解する開発教育のワークショップを実施する。教職員はそれを見学してもらい、教職員向けに開発教育の進め方を説明する。国際協力NGO、開発教育や国際理解教育に関する教材・資料等の照会にも対応する。

②目的

- ・グローバルな課題や国際協力についてワークショップを通して理解を深める
- ・NGOやODA活動、国際協力、開発教育や国際理解教育の教材や資料の紹介

③対象者および参加人数

埼玉県内高校生 60名 教職員20名

2 出張者氏名

八木亜紀子

3 依頼元/主催団体名

埼玉県高等学校家庭クラブ連盟

4 実施日時

令和元年8月20日 (火) 13:40 ~15:20

5 実施場所

国立女性教育会館 (住所：埼玉県比企郡)

6 実施報告

・参加した家庭科教員20名を対象に、開発教育や国際協力・国際理解に関する相談対応を実施した。家庭科には「消費や環境に配慮したライフスタイルの確立」を主に、関連する学習テーマが多くあることから、教材や資料のほか、NGOに関するご相談も寄せられ、対応した。

・ワークショップでは世界と日本のつながりや責任ある生産と消費、紛争をテーマにした「スマホから考える世界・わたし・SDGs」を実施した。参加した高校生だけでなく、見学の教員からも「紛争鉱物とスマホに関係性があることを知らなかった」、「持続可能な社会のために、消費だけでなく、商品開発の視点やルール作りが重要だと思った」との感想があった。

7 写真



ワークショップの様子

(写真1)



ワークショップの様子

(写真2)

以上

令和元年8月28日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 『2019年度開発教育・国際教育セミナー』における
NGO相談員ブース出展』

企画実施概要: ①実施内容
JICA関西、大阪府国際交流財団、大阪国際交流センターでは、学校と地域、NPO/NGOなど諸団体と連携し、国際教育の教材と授業づくりに関する事例報告、ワークショップ、諸団体との交流・情報提供などを通して学び合う機会を提供している。そうした場で、相談員ブースを出展し、国際協力の潮流や日本のNGOに関する教員の質問・相談に幅広く応じた。また、生徒に国際協力について紹介したいと考える高校教員から国際課題事例を紹介した。

②対象者および参加人数
教職員を中心に、学生、開発教育・国際教育に関心のある方、70名。
ブースにて相談対応件数4件。

2 出張者氏名 岩根あずさ(関西NGO協議会)
3 依頼元／主催団体名 独立行政法人国際協力機構関西センター(JICA関西)
4 実施予定日時 令和元年8月1日 (木) 10:00-17:00

5 実施場所 国際協力機構関西国際センター(JICA関西)
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

6 実施報告 全体として教育関係者の参加が多く、開発教育や国際協力、ODAに関する教育方法や高校生への紹介方法についての質問等が多かった。中でも、高校生が興味関心を持つきっかけ作りの方法に関して教育関係者は関心が高いことが見受けられた。NGOの行う国際協力や、ODAについて自信の生活や高校生にとって遠いものという意識を持っていた高校教員に、関西のNGOを中心に活動を紹介することで「国際社会とのつながりを意識することができた、さらに知ろうと思った」という感想を受けた。また、高校の養護教諭から保健という切り口で高校生にSDGsと国際保健のつながりを紹介したい旨の相談があった。国際的な事例を紹介した上で、高校生が学びを発表できる場としてワールド・フェスティバルfor Youthを紹介した。実践的に学び、考える場としてぜひ活用したいとのコメントを受けた。

7 写真



NGO相談員ブース設置の様子



高校教員からの質問を受ける様子

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: 『JICA/NGO提案型プログラム SDGs研修和歌山開催』における
NGO相談員ブース出展

企画実施概要: ①実施内容
和歌山NPOセンターによるNPO/NGO、企業、教育機関、協同組合・
生協などを対象としたSDGsの普及啓発から実践につなげるための
SDGs研修を開催し、相談員ブースを出展して国際協力の潮流や政
府のSDGsに対する取り組み、日本のNGOについて、参加者からの質
問・相談に幅広く応じる。

②対象者および参加人数
和歌山市役所職員、和歌山生活協同組合、日本たばこ産業、白浜ア
ドベンチャーワールド、近畿労働金庫ほか、合計50名

2 出張者氏名 高橋美和子・佐野光平(関西NGO協議会)

3 依頼元／主催団体名 和歌山NPOセンター

4 実施予定日時 令和元年8月30日(金) 11:00～17:00

5 実施場所 県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛(和歌山県和歌山市手平)

6 実施報告
・和歌山市はSDGs未来都市に選ばれていることもあり、行政や生活
協同組合が熱心であった。独自でSDGsのフォーラムや勉強会を開
催したいとの相談を受けたので講師の紹介や内容のアドバイスを
行った。
・政府のSDGs実施指針改定についても質問があり、ステイクホル
ダー会議(9/6)や円卓会議(9/9)の予定とともに、NGO/NPOから意
見書を取りまとめていることなども併せて伝え、高い関心を示して
られた。
・和歌山はNGOが少ない地域ではあるが、SDGsに対する関心は高ま
りつつあり、今後もSDGsに対する相談対応は需要があると思われ
る。

7 写真



研修参加者にNGO相談員制度の説明を活用方法について周知を行った。

(写真1)



NGO相談員制度ブースコーナーを研修室広報に設置

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 第16回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー

企画実施概要： ①実施内容
第16回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナーの会場にてNGO相談員ブースを設け、セミナー参加者からの相談に対応する。
②対象者および参加人数：国際理解教育及び開発教育に関心のある教育関係者。8月5日は133名、6日は154名がセミナーに参加した。

2 出張者氏名 坂西 卓郎、中村朱里

3 依頼元／主催団体名 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸YMCA、JICA関西、他2団体

4 実施予定日時 2019年8月5日（月）～6日（火） 13：00 ～ 17：00

5 実施場所 JICA関西（兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2）

6 実施報告 セミナーには両日とも定員100名を大きく上回る参加者があり、教育関係者の国際理解教育・開発教育への関心の高さが伺われた。まず、セミナーのオープニングにて、参加者全員に対してNGO相談員制度の概要をご説明した。また、セミナー会場に相談員ブースを設置し、チラシの配布、相談者への対応を行った。相談対応は坂西が主に行ったが、初日に相談者が集中する時間帯のみ中村が補助として加わった。

日頃、NGOや国際協力とは接点の少ないであろう教育関係者に情報提供を行う貴重な機会となった。特に開発教育の手法や出張サービスに関する質問も多くあり、今回の相談対応が具体的な実践へと繋がりそうな事例も見受けられた。

7 写真

	
<p>オープニングの様子。NGO相談員制度について参加者全員に対して説明した。</p>	<p>ブースでの相談対応の様子。多くの教育関係者に関心を持っていただいた。</p>

(写真1)

(写真2)

以上

令和元年9月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 大阪YWCAにおける講演

企画実施概要： ①実施内容

アジアの国の農村部の生活実態や現在の問題について説明し、子ども達からの関心事や質問にお答えした。また衣・食・住、踊りやネパール語の文字や挨拶を紹介しながら、交流を深めた。

②対象者および参加人数

大阪YWCAの幼稚園年長から小学校5年生まで（20名程度）

2 出張者氏名

山本 健太郎

3 依頼元／主催団体名

大阪YWCA

4 実施予定日時

令和元年8月25日（日） 12:00 ～ 13:00

5 実施場所

大阪YWCAシャロン千里（大阪府吹田市古江台3-9-3）

6 実施報告

大阪YWCAで幼稚園年長から小学校5年生までを対象に、当会のネパールの研修生と共に講演を行った。子どもたちに講演前に予め用意してもらったネパールへの質問に答えたり、実際のネパールの生活背景や問題を共有する中で交流を深めた。またこの研修生がどのような経緯や目的を持って日本に実地研修に来て、自身の村・地域をどう変えていきたいかなど、研修生を交えて具体的に説明することで、子どもたちが研修生の地域に根付く課題を考えるきっかけとなった。

さらに講演中には、ネパール語の文字や挨拶を紹介する時間も作り、子どもたちは初めての体験に興味津々だった。また踊りや遊びを交えて、日本の文化との違いを感じてもらい、自分たちの普段の生活を見つめなおすきっかけを提供できたと考える。またネパールのカースト制度や慣習についても学び、その後自ら質問をする子どもたちの姿に、より国際的な事柄への関心が高まったと考える。

7 写真



(写真1)

(写真2)

以上

令和元年9月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
AMDA社会開発機構

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 小学生のための夏休みボランティア体験 ゆうあいクエストIV 2019夏

企画実施概要：

①企画内容

日替わりクエスト「古切手で国際協力！」

②対象者および参加人数

小学生とその保護者及び学生ボランティア19人

2 出張者氏名

竹久 佳恵

3 依頼元／主催団体名

岡山県ボランティア・NPO活動支援センター（ゆうあいセンター）

4 実施日時

令和元年8月1日（木） 10:00～12:00

5 実施場所

会場名（ゆうあいセンター、住所：岡山県岡山市）

6 実施報告

・メディア・インターネットの情報や学校教育を通じ、途上国の現状を見聞きしたことがある参加者（小学生）が多かったが、知っている事実（世界には文字の読み書きができない人がいる）の背景や原因、当事者の気持ち、古切手がお金に替わる仕組みと用途（識字教室の開催など）について、理解したり考えたりしたのは初めての様子だった。講義に加え、実際に寄付する古切手の仕分け・整理作業をしたことで、「ちょっとした身近な取り組みが国際協力につながる」ことを体感してもらえた。

・参加者の付き添いで来ていた保護者（母親、祖母）からは「他ではあまりない企画でよかった」と好評だったのに加え、他にどのようなことが国際協力につながるのか、NGO相談員に質問が寄せられた（例：ハガキや古着の寄付についてなど）。

7 写真

	
<p>出前講座の様子 (写真提供：岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)</p>	<p>NGO相談員（左端）と参加者 (写真提供：岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)</p>

(写真1)

(写真2)

以上

2019/11/5

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： ネパールの口演を通じた国際理解の促進

企画実施概要： ①実施内容
来日しているネパールからの研修生を講師が紹介しながら、ネパールについておよびNGOによる農業支援の実情を紹介することで、国際理解を促進する。

②対象者および参加人数
島根県邑智郡邑南町在住の小学生、中学生12名、大人9名 計21名

2 出張者氏名 東村 康文

3 依頼元／主催団体名 島根県邑智郡邑南町地区別戦略田所をどがあずしろう会

4 実施日時 令和1年8月7日（水） 18:00～19:00

5 実施場所 民泊&フリースペース 縁（住所：島根県邑智郡邑南町下田所902-1）

6 実施報告

町では、「世界にもはばたける子供たち」の育成ということで、地域での国際理解教育に関心を持っており、地域の活性化を目的にした地区別戦略会議のメンバーから口演依頼があった。小学生、中学生、大人にたいして、来日しているネパールからの農業の研修生を講師が紹介しながら、ネパール国についてとNGOによる農業支援の実情を説明した。また、口演の後に、ネパールのお菓子やカレーを食べながらネパールを身近に感じる工夫をした。

小中学生からは、ネパールという国の位置すらしなかったが、今日の口演からとても身近に感じた、ネパール語という独自の言語があることを知り、英語だけではなく世界は多様であると実感した、という感想があった。

7 写真



(写真1)



(写真2)

以上

令和1年11月5日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 青少年グローバルリーダー育成フォーラム

企画実施概要：

①実施内容

青少年（高校生、大学生）を対象に開催しているグローバルリーダー育成フォーラムにて、国際交流・国際協力に関心を有する青少年や市民に冊子「四国・国際協力団体とODA」等を活用して、ODAやNGO活動に関する関心を高め、四国のフェアトレードに関する動きについて紹介するとともに相談対応を行った。

②対象者および参加人数

高知県内の学生、市民：約60名

2 出張者氏名

菅 未帆

3 依頼元／主催団体名

高知県青年国際交流機構（高知県IYEO）

4 実施予定日時

令和元年8月12日（月） 9：00 ～ 17：00

5 実施場所

高知市文化プラザかるぼーと

6 実施報告

- ・それぞれのNGOの傾向を、経験談・体験談を交えてお話いただいたので、分かりやすかった。お話しいただいた内容は知らないことばかりだった。
- ・自分の可能性に対して、自分自身を信じてあげられるような気持ちになった。色々な国の方とコミュニケーションをとりたいと思った。
- ・海外の方の考え方、文化、習慣など、日本とは違うところがたくさんあり、今後の活動に生かせそうと感じた。

7 写真

	
全体会	分科会

(写真1)

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： インターン派遣団体が実施する課題解決型ワークプログラムへの参加

企画実施概要： ①実施内容
学生のNPO・NGOに対する知識・意識を高め、課題を共に考え、身近に感じてもらうためのイベント。NGOに関わる課題を共有したのち、参加学生が解決の糸口を検討する。

②対象者および参加人数

学生およびスタッフ（約35名）

2 出張者氏名

住本大輔

3 依頼元／主催団体名

NPO法人ドットジェイピー

4 実施日時

令和元年8月24日（土） 13:00～17:00

5 実施場所

会場名：西南学院大学（福岡県福岡市早良区西新六丁目）

6 実施報告

学生からの各種質問に答えた。NGOについてまったくイメージのない方から、興味を持ち自分から積極的に調べている方までさまざまであった。後半の課題解決ワークでは、NGOの問題を自分のこととして考えてもらうことで、さらに深く理解してもらえるきっかけとなった。当団体のグループでは「どうしたら日本のNGOが人気の就職先になるか」がテーマ。教育から変える必要がある。メディアを動かさないといけない。といった様々な提案がされた。

7 写真



当団体担当グループによるディスカッション

(写真1)



全体の様子

(写真2)

以上